

2019-07 2019.07.16

2019 年 7 月 議事録

令和元年 7 月 16 日（火）AM10：00～12：00 東児童館調理室

出席者；坂口（東 2）山口、神田、守谷、篠原（自警団）原田（稲パト）大竹（社協）荻生（社協）半田、笹澤、須藤（東 2 長）鈴木

配布資料；25 回目議事録、26 回目会議書き込み資料、東 2 丁目自警団ニュース（2019 春）、搬送訓練

<議題>

1. **東 2 丁目町会役員坂口隆氏紹介**⇒東 2 で広報を担当。豊田市「地域防災について」の防災マニュアル & MAP づくりに携わった防災コンサルタント

2. **坂口さんの発表—この地域に必要な自助と共助について**

豊田市の地域防災課からの依頼で年 3 回のワークショップを 11 クール行った。1 回目は導入 2 回目ハザードマップに基づいた危険個所の把握 3 回目具体的なマニュアル作成

◎**この地域（東・稲荷前）**は平成 30 年発表で一番影響の強い茨城—埼玉にまたがる断層起因の地震でも **M6.3 震度 6 弱**と予想されている。⇒固定されていない食器棚、冷蔵庫は倒れる。家具の固定と寝室にスニーカーを準備は最低限の心得。

豪雨災害他の災害はほぼ考えなくて良い。（竜巻、台風は除く） 洪積層（氷河期よりも古い 300 万年～1 万年前）の地盤だが、若干整地のために盛り土をしている地域がある そこは液状化が考えられる。

◎まずは**自分と家族の「命と健康」**を守る。公助を得られるのは 3 日間無いと考え 72 時間保てるだけの食料、飲料水、暖房、医薬品など備蓄を行う。帰宅困難者が大量に発生することを考慮（＝女子供のみの非力家庭の発生）

●他に比べて被災しにくい場所で逆にそこから避難者が来ることを考えられる地域。故に**むやみに外に避難することを考えるよりも自宅で如何に安全に過ごせるかを考えたほうが良い。更に高齢者、障がい者、病人、社会弱者にとって避難所は快適な場所ではない。**安全にいつも通りの器具、薬、環境を保てるよう普段からの備蓄を考える。

◎避難所へ行くよりは自宅待機。だが、ヘルパーに頼って生活が成り立っている者にとってはヘルパーが来られなくなる場合が考えられる。⇒**ご近所（共助）福祉の出番。**

3. **支え合いマップに書き足すべきことは？**

◎防災に役立つ「危険箇所」「コンビニ」「自動販売機」「自動車工場」「工務店」「医師」の書き込み
⇒個人情報付箋で着脱可能に。

◎井戸のありかた；O-157 汚染の可能性の少ない深い井戸を掘るのは 1 千万円レベルの話。二の宮公園、洞峰公園の井戸は 100M 深度。中途半端な井戸の井戸水は間違えて飲用する危険あり。混乱している時期に感染症の発生は更に混乱を深める。この地域の住宅ならばペットボトルの水を大量に備蓄すれば古いものは生活水、期限内のものは飲用がお勧め。

以上の内容の『**東小学校区の防災について何ができるか、みんなで考える会（略称「みんなで考える会」）**』を以下の手順で進める。

① きずな通信 2 号にて みんなで考える会（12 月 8 日日曜日）の告知。（東小まつりへの参加 PR）

② 「東小学校区の防災について何ができるか、みんなで考える会（略称「みんなで考える会」）実施

2019 年 12 月 8 日（日）午前の部と午後の部

東地区は鍛冶が台公園集会所 稲荷前地区は稲荷前研修センター（時間配分未定）

内容；話題提供（坂口さん）ワークショップ（防災 MAP づくり）

次回は 8 月 20 日（火）AM10：00～12：00 鍛冶が台公園 東 2 丁目集会所